

第8回越冬(77~78)

1977年5月、認定支給額は2700円から4100円に値上がりする。しかし釜の景気は停滞、炊き出しを利用する労働者は倍増する。(この年は釜日労による通年炊き出しが行なわれた)

6月、柳井建設(大正区・人夫出し)で12名の労働者(出稼ぎも含む)が焼死。不況時の特徴である“タコ部屋半タコ”の被害者が続出する。

10月、アオカン労働者が自炊のふぐ中毒によって4名死亡。いずれも30才代であり当時の不況の深刻さがわかる。(私自身もケタオチ人夫出し飯場に入ったりした)

11月21日、ドヤ「新大阪」の火事で労働者2名焼死。
「これ以上殺されてたまるか」の決意のもと越冬期を迎える。

20日、越冬実結成。

30日、萩之茶屋中公園(海道公園=西成署裏)使用許可申請に対し、公園局より不許可の回答が届く。

12月13日、突然公園が全面封鎖される。(これで釜の公園が三つ封鎖された事になる)

しかし、炊き出しは市民館前で続行され、夜からは医療パトロールが開始される。

25日、越冬斗争突入。

(この間炊き出し作業拠点となっていた野鳥の会(飛田方面)が、西成署・大家のいやがらせによってガス供給が停止され、使用不能となり、喜望の家で行なわれる事となる)

29日、南港臨泊の受け付けが開始される。

ガードマン・機動隊の常駐、市更相での受付時の厳重な監視・選別が一段と強化される。市民館前での炊き出し、医療センター1階での布団敷きを中心に越冬活動も年を越す。

1月4日、大阪市糾弾斗争。

“臨泊・アウシュビッツ化・公園封鎖を許すな”

10日、市の越冬対策・宿泊所が打ち切られる。

臨泊での結核による死、医療センター1階での原因不明の死、行路病死、数多くの死者を出す中で2月にいたる。仕事は少しずつ出てくるも青年者は減らず。

3月1日、前回に続いて長期の越冬は終る。

今越冬中、多くの政治斗争に取り組んでいる事が特徴的である。

11月28日、山谷・寿・笹島・釜の全国寄場共斗で、労働省交渉。

1月29日、刑法・刑訴法改「正」阻止全国総決起集会(東京)。

2月16日、鈴木国男(元釜共斗活動家)虐殺2周年糾弾斗争(大阪拘置所)。

2月21日、関西刑法改「正」・保安処分粉碎連絡会議結成集会(大阪部落解放センター)、等。

日刊えつとうの連日の政治記事内容に「カタクテ・ムツカシスギル」との労働者の声も多々あったようだ。

1978(昭和53)年

1月20日 「センターだより」創刊号。

記事に「就労正常化週間」とあって、「いぜんとして無届や、求人プラカードなしの求人が後をたたず……」とある。労働福祉センターの「正常化」とは、人夫出しを黙認するところから始まっている。

3月26日 成田空港管制塔占拠事件。
開港をめぐり、斗争更に激化。

4月16日 釜ヶ崎解放会館設立。

4月26日 深夜、ドヤ「北ぐに」火事。西成署のすぐ北側。約1500人の群集が集まり、“西成署も燃えてまえ”と罵声をとんだ。後日1名死亡確認さる。

5月1日 第9回釜ヶ崎メーデー。

初の地区内デモ。三角公園から銀座通りをぬけセンターへ。2名逮捕さる。

アブレ手当(認定)、4100円に引き上げられる。賃金日額が、一級(日当)3500円以上が(認定)2700円だったのが、一級5400円以上が4100円となる。

アブレ手当は上ったものの、諸物価・ドヤ銭・飯代・諸式(飯場内での日用品の販売)の値上りで、焼け石に水。

6月12日 通称“壁新聞”(寄せ場・働く仲間の新聞、発行:釜ヶ崎新聞社)をめぐり、センター内で2名逮捕さる。

6月27日 暴力飯場、中島組(美濃)による暴行・監禁事件発生。

27、28日と連続糾弾斗争。以後、元請等に中島組しめ出しを要求。

7月7日 中島組飯場、火炎ビン焼き打ち決行される。

8月1日 中島組斗争勝利集会。

1ヶ月の持久戦と火炎ビン戦の成果。被害者の全面保障をかちとる。

- 8月5～6日 夏期一時金(ソーメン代)支給、5800円。
 8月12～15日 第7回釜ヶ崎夏祭り。
 ○芝居、満開座。
 ○フォークソング、三上寛。
 9月30日 柳井建設社長、柳井武雄を業務上過失致死傷・労基法違反で起訴。
 (10月1日、読売)
 ×月×日 この頃「下請労働者組合」のピラ出る。
 10月3、18日 中島組火炎ピン斗争の件で、組合員3名逮捕される。
 12月9日 民生局による狩り込み(青カン者の強制収容)行われる。
 12月9～10日 冬期一時金(モチ代)支給、7600円。
 12月21日 中央総評から、山谷・寿・釜の三大寄せ場に各900キロの支援米送られる。
 12月22日 市は、突然、花園・仏現寺・海道の3公園を来年2月まで使用禁止するとの告示を出す。



1月3日
公園で餅つき

苦しい生活にも、チョッピリ正月気分。支援の若者も応援する。



1977年2月10日 クリスチャン・グラフ

第9回越冬(78～79)

- 1978年4月、釜ヶ崎解放会館設立、釜日労の新拠点となる。
 9月、萩之茶屋中公園の鍵がはずされ、公園内に戻って炊き出しが続行される。
 (この年、昨年に続いて通年炊き出し)
 10月、暴力飯場・中島組斗争で組合員3名逮捕さる。
 中島組はぶつつぶしたものの2名が起訴され越冬期を迎える。
 12月11日、一時金支給時、越冬カンパ67万円集まる。
 16日、越冬斗争支援連帯集会。
 ○釜ヶ崎差別治安弾圧を打ち破れ!
 ○日雇労働者使い捨て「行路病死」を許さんぞ!
 ○仕事よこせ、病気の仲間を入院させろ!
 ○政治反動と戦争への道を打ち砕け!
 22日、海道公園・花園公園・仏現寺公園が施錠され、再封鎖、越冬つぶし攻撃が始まる。
 25日、越冬突入。炊き出しは市民館前、布団は医療センター前で行なう事となる。
 同時に当日、職安斗争、白手帳の新規取得・更新・再発行の際のしめつけに対し、窓口交渉を貫徹。
 1月4日、大阪市に対し、殺人行政糾弾斗争。
 その後、南港宿泊所で、面会を要求。仲間の隊列に機動隊がおそいかかり、越冬実委員長と労働者1名、「建造物不法侵入・公妨」で不当逮捕される。1月6日に2名釈放。
 1月7日、医療班・キリスト教越冬委員会による病院訪問。
 14名中13名が結核で入院、羽曳野病院、阪奈病院、島田病院、相原第二病院。いずれも設備・診療体制・食事等不十分であり、医療行政が「金もうけ第一主義」の民間病院に委託・依存し責任転嫁している結果である。
 「釜の近くに釜の労働者が入院・療養できる総合病院を行政が建てる以外に問題の解決はありえない」と訴えている。(日刊越冬1月8日号)
 1月31日、2月8日、医療センター前で青カン者のアンケート調査が行なわれる。
 調査項目は多岐に渡っているが、
 ○年齢は40代が最も多く39人
 ○出身地は、大阪が一番だが、全国各地から釜にきている
 ○釜での生活歴は10年前後が最も多い
 ○職種は土木が多く44名等々。
 2月6日、中島組斗争の逮捕者2名の保釈を勝ちとる。
 警備班・医療班・炊事班等、多くの仲間の努力で越冬も終盤を迎えるも、死者は3名、シノギの横行もあり、負傷は多数。

第10回越冬(79~80)

11月、センター開所以来最高の求人数に到る。

建設業(公共事業が主体)が9割をしめ、製造・運輸は激減。

12月14日、越冬斗争支援連帯集会。

『越冬斗争は資本と国家権力がもたらす釜ヶ崎の冬地獄の中で主に高令病弱「障害」の仲間が、「行路病死」攻撃をかけられる事に対して、差別分断を打ち破り仲間の斗いに結合する中で“1人たりとも仲間から死者をだすことを許さない”決意の元に取り組む斗いである。』

— 基調より —

25日、海道公園での1日3食の炊き出し、医療センター前での布団敷きが始まる。

26日、結核問題で西成保健所・環境保健局に要求書提出、交渉をもつ。

釜ヶ崎被爆者の会、釜ヶ崎結核患者の会、キリスト教釜ヶ崎越冬委員会と越冬実。当局側は釜の結核をなくしていこうという姿勢にはほど遠い。

28日夜、布団敷きのため医療センターに移動中「違法デモだ」と1名不当逮捕。(30日、完黙で釈放)

29日、南港臨泊受け付け開始。

当日は400名入所。

市更相の差別的な窓口規制と、臨泊の治安管理体制は去年と変わらず。

1月3日、団結もちつき大会。

5日、山谷越冬実より、緊急連絡が入る。

神奈川県の大井臨時宿泊所(釜での南港臨泊にあたるもの)での斗争で6名が不当逮捕、200名の労働者の結集で都庁、山谷対策室を包囲・糾弾デモを敢行。(当時、山谷越冬実は山谷日雇労組、山谷統一労組、6・9救援会の4団体で構成)

23日、中間報告集会、市民館に130名参加。

山谷日雇労組の仲間の斗争報告、全障連のアピール、2月末まで越冬貫徹を確認。

しかし、2月に入って、釜日労内部において西成分会一時金天引反対訴訟をめぐる、路線対立が発生、後に訴訟継続派が別組合(現、釜ヶ崎地域合同労組)を作る事になる。内紛の反映か、2月中旬で越冬は打ちきられたらしい……。私のファイルには「日刊えっとう」2月4日号までしか残っていない。

さて、1月中の「日刊えっとう」には労災シリーズが連載されています。労災にあった場合の手続・治療・休業補償等、じつにくわしく書かれています。労災の法律知識はくり返しくり返し精査していく必要があります。

1月6日、7日の2日間は文化体育班によって、“かまがさきこどもよこちよ

う”が催されています。越冬中に子どもを対象とした行事が行なわれたのはこれが最初だと思います。越冬と子どもという視点は次回越冬に引きつがれていくのでしょうか。

第11回越冬報告を待て。

1980(昭和55)年

1月 釜ヶ崎反弾圧協議会結成。

(1979年6月26日のデッチ上げ爆取弾圧をきっかけとして、救援の組織化が呼びかけられた。)

2月9日 100円訴訟自己批判の大家ピラ出す。

委員長稲垣氏は「100円訴訟を闘う会」を結成、訴訟継続。

3月24日 大型タンカー「徳山丸」の廃油不法投棄発覚。

タンククリーニングを請け負った内外産業は、大阪・西成と神戸・新開地の日雇労働者23名によってタンク清掃を行なった時、引き上げたスラッジを高知沖などに約180トン投棄した。

3月29日 内外産業の現場主任と作業班長が逮捕される。

4月6日 釜日労内部で、稲垣氏ら3名統制処分、解任される。

4月11日 春期斗争討論集会。(市民館)

賃金7800円獲得に向けて、賃金斗争争議団を結成。

4月14日 タコ部屋、西播給業(姫路)斗争。

勝利号で飯場を急襲。労働者の救出、不払賃金清算等圧倒的な勝利におわる。西の西播、東の矢追(奈良)といわれてきた悪名高いタコ部屋の一つをたたきつぶした。

4月22日 “求人数記録更新中”(朝日)

センター求人数は開設以来初めて8万の大台を突破。91%が建設業。賃金も好況と春斗で500円アップの6500円以上。売手市場の為「朝食付き」などサービスも目立つ。

4月25日 賃金斗争争議団による、センターケタオチ単価追放始まる。

4月26日 岡田組、渥美建設(5700円)を追及、団交の結果6500円へ。

4月28日 中島組火災ピン焼き打ち事件被告2名に実刑判決下る。

4月30日 神明工業、センター団交からトンコ。

5月1日 第11回釜ヶ崎メーデー。

釜日労の隊に、

○釜ヶ崎タンク掃除労働者共闘(準)

○奄美反CTSに連帯する会

- が参加。
- 5月6日 神明斗争において4名不当逮捕。
(大正現地でのピラはりなど)
- 5月8日 神明工業飯場内団交に勝利。単価6500円へ。
- 5月16日 中山工務店(大正)との飯場内団交決裂。
5月19日、第2回団交も決裂。
以後、賃上げを拒否した中山との全面戦争へ。
- 5月末 釜ヶ崎夜間学校始まる。
喜望の家で週1回開催。
- 7月 釜ヶ崎反弾圧ニュース創刊号でる。
- 7月30日 全大阪合同労組・松浦診療所分会結成。
松浦診療所(港区)内のパート差別を告発する。
経営陣は全港湾港合同を中心とする労組の集合体であり、「労働組合による組合つぶし」として釜日労に支援を求める。
- 8月12~15日 第9回釜ヶ崎夏祭り。
映画、韓国1980(5月光州蜂起のドキュメント)
受難の記録(強制連行の記録)
沖縄ガジュマルの会の歌と踊り。
(第9回は祭りの代表者を誰にするかで稲垣派ともめる)
釜ヶ崎子供横丁のだんじり、不許可となる。
- 9月 福井県美浜原発・下請け作業紹介がこじれ、殺人事件発生。
公判で原発手配師の実態が明らかになる。
- 10月28日 1972年、浪速区水崎町交番爆破事件で、元釜赤軍2名に懲役10年の判決。
- 11月25日 丸栄建設(尼崎)の暴力事件糾弾。
- 12月6日 冬期一時金支給、8600円。

この一年間パチンコや公営ギャンブルばかりやっていた様な気がする。暇な時に書き溜めておけば良かったのだが……。ともあれ、何とか20回越冬まで書いて、「小史」として自費出版したい。できれば、1年の出来事を年表風にまとめて、越冬史一年表-越冬史一年表という風に、釜ヶ崎斗争史入門編という様なものにしたい、と夢は大きく、酒でとろけ出した頭と胃袋にムチ打って書き始めることにする。

(なお越冬10回目までは「第21回釜ヶ崎越冬斗争報告集」を見て下さい。釜日労事務所にて販売。700円)

— 日刊えっとう第6号(91.12.29)より

第11回越冬(80~81)

(1980年)4月9日、春斗のさなか稲垣派3名を解任。

4月14日、タコ部屋「西播総業」追放斗争。

西の“西播”東の“矢追”といわれた悪名高いタコ部屋の解体・追放に成功。稲垣派との分岐から独自路線を提起。力の再構築をちとる。この斗いは山谷等他の寄せ場の仲間に大きな衝撃を与え、後に日雇全協結成の原動力となった。

更には、西播斗争を前後して『賃金斗争・争議団』が結成され、旧釜共斗の仲間も争議団に合流。渥美・神明・中山などの大手人夫出しとの最賃引き上げ、労働条件の向上などの斗いを貫徹。中山工務店とは1年越しの斗いになった。この斗いは人夫出し勢力に一定の影響力をちとり、81年以降の春斗を有利に進める事になる。

(しかし根本問題として労働組合が人夫出し“業者”と賃金交渉をもつという事は議論の分かれるところでもあると思う)

前おきが長くなったが、12月6~7日、モチ代カンバ83万円。

12月19日、越冬斗争支援連帯集会。

25日、越冬突入。

医療センター前での布団敷き。四角公園(市民館前の公園)で1日3食の炊き出し、医療班による医療センター前での医療相談、每晚10時のパトロール等、各班の活動が開始される。

私自身も遅ればせながら争議団に参加、今越冬は何年ぶりかで炊事班に参加した事を覚えている。

12月28日、アオカン者数は265名に達するも、29日、臨泊受け付けが始まり、30日168名、1月5日88名と減少。(年を越して仕事が出てきた事が原因)

1月5日、殺人行政糾弾、対市抗議行動。

この年は大阪市に対する抗議・要求行動にとどまらず、建設大手資本に対する抗議行動を行なった。

長谷川工務店、大林組『手配師、人夫出しを使わずに釜ヶ崎に仕事を持ってこい!』(このような要求斗争がきかれなくなってずいぶんたつなあ……)、

続いて大成建設『大成は山村組の責任をとれ! 半ダコ暴力飯場を使うな! 海外侵略をやめろ!』(山谷での山村組=暴力飯場との斗いで山谷の仲間7名が不当逮捕された。この斗いに釜でも山谷に連帯し大成に抗議したのである。)

10日、南港臨泊が打ち切られた。

仕事はポチポチだが、センターが開く前(5時前)の早朝求人や、顔付けが多い。医療センター前のアオカンは一時的に急増。以降センターで手配師・人夫出しに目を光らせながら、31日、越冬最終日を迎える。

さて、第11回越冬斗争の「日刊えっとう」では、二つの記事が目につく。

一つは「中味シリーズ」として6回に渡って連載された、「障害者」差別と闘う赤堀差別裁判糾弾斗争を中心とした記事。

二つ目は、第10回越冬の労災シリーズに続く反弾圧シリーズ“反弾圧の心得”である。これは、「釜ヶ崎反弾圧協議会」の署名によって3回連載された。パクラれたらまずどうすればよいのか、労災シリーズ同様くり返しくり返し情宣していく課題であります。10月暴動の時「パクラれたら……」のピラまきを提起したのですが、たった1回しかまけなかったのが残念です。

(次回をお楽しみに!)

1981(昭和56)年

1980年から景気かげりが見えはじめ、この年更に加速する。

1月19日 生きぬくための大行進。

「釜ヶ崎炊き出しの会」など中心となり銀座通りデモ。

○あいりん職安は仕事もってこい。

○病気の仲間を入院させろ!

○ドヤにも生活保護の適用を!

など要求。

2月20日 医療センターで肺結核・要入院と診断された患者が市更相に入院を申し入れたが、手続きが延ばされている内に路上に倒れ死亡。結核患者の会などが人権侵害として大阪弁護士会に訴えた。

同日 1976年1月3日、越冬中、炊き出しの規制に入った警官の暴行を受け、損害賠償を求めていた当時の越冬実メンバーに対し、警官の暴行を認め、治療費などの支払いを命じた。

2月23日 大阪南港で釜労働者の死体発見から、暴力飯場中沢組(三重県)でのリンチ殺人発覚。

3月 釜ヶ崎地域合同労組結成。(稲垣委員長)

3月13日 釜日労・争議団による春期斗争討論会(第2次春斗)。

3月18日 第2回春斗討論会。

○賃金斗争を主軸とし、最低8000円要求、中山工務店斗争を継続などきまる。

4月16日 業者に要求書送付。

○賃金8000円以上

○労働条件改善

など。

4月24日 1977年4月に越冬仮設テントが強制撤去されたため、損害賠償を求めて提訴していたが、越冬活動を評価しつつも撤去正当と判決。

4月25日 ふるさとの家にマザーテレサ来る。

8月12~16日 第10回釜ヶ崎夏祭り。

○映画「アルジェの斗い」

「釜ヶ崎暴動36」(第一次暴動20周年ということで)

8月22日 参院議員中山千夏、釜に来る。

11月 全国寄せ場交流会結成。

“全国の寄せ場労働運動潮流の「路線的統合」をめざす”

○釜日労・争議団

釜島日雇労働組合準備会

山谷争議団

寿日労

12月24日 100円訴訟判決下る。控訴棄却。

第12回越冬 (81~82)

(1981年) 2月23日、タコ部屋でのリンチ殺人事件発覚。

三重県伊賀町の「土建業」(実体は人夫出し)中沢組が釜の労働者を15日契約で雇い、暴力で強制的に働かせた。そして逃亡を計った一名を殺し南港に捨てたという事件である。

中沢組ばかりでなく、仕事の減少で人夫出し、手配師の横暴が目立つ。釜春斗も八千円要求を出すも、六千五百円の最低単価獲得で終わる。

『不況長期化の中で“冬の時代”をこえる80年代の激動』を模索する、全国寄せ場労働運動潮流の路線的統合を斗いとるべく、全国寄せ場交流会(釜日労・争議団、笹日労、寿日労、山谷争議団の4団体)が結成され、12月をむかえる。

12月4日、第1回越冬討論会。“熱い団結で冬地獄を撃て”をスローガンに釜ヶ崎争議団も初めて越冬に参加。

24日、越冬総決起集会。

- アブレ「行路病死」攻撃糾弾!
- 半タコ・暴力飯場追放!
- 刑法改悪・保安処分新設国会上程阻止!
- 労職の産報化と対決する全国寄せ場の隊列を!

25日、越冬突入。期間は1月15日まで。

28日、医療センターでのアオカン者380人を越す。昨年の同時期より百名近く多い。

29~30日、南港臨泊受け付け。

南港1582名、自彊館401名、淀川寮30名、計2013名。

1月7日、八起建設(名古屋)に対する緊急抗議行動が全国寄せ場の統一行動で斗われた。

八起は賃金を取りに行った労働者をスコップを振り回して追い返す暴力業者である。まず釜では60名が勝利号に乗り込み、京都府美山町の現場にむかい、元請ユニチカの下請、エタニット本社に押しかけ、八起を切るように要求。更には笹島の仲間が、名古屋のユニチカ・エタニットに押しかけた。

10日、山谷越冬斗争の報告が入る。4日より都庁前と、大井収容所(釜の臨泊にあたる)で4名がハンスト。「労働相談等で山谷争議団が収容所に入出入りする事を許可」の確約を取りつける。

13日、大阪駅手配の暴力業者、藤原靖組斗争。

早朝6時、勝利号で尼崎の飯場にむかい、食事中的飯場を一気に制圧し、オヤジを呼び出して団交。労働者に対する暴力の謝罪と、未払い賃金の精算、駅手配をやめセンター求人にする事等を確約させた。

押しかけ争議が中心ではあったが、この連続斗争は越冬実に緊張感を与え、越冬全体が生き生きと運営されていた。又、「日刊えつとう」には4コマ漫画「釜ヶ崎冬の陣」が連載され、毎日読むのが楽しみだったのを覚えている。作者は例の有村氏ではない。

一方、釜日労から分かれた稲垣氏は、釜ヶ崎地域合同労組を結成し、独自に越冬斗争を取り組んでいる。



1982 (昭和57) 年

- 1月24日 釜ヶ崎地域合同労組を中心とする「生きぬくための大行進」。
約100名参加。
- 1月26日 市更相で釜日労書記長逮捕される。
(29日、拘留却下)
- 2月1日 ドヤ「ホテル福寿園」火事。
外観2階、中身4階のカイコ棚、依然として放置されたまま。
- 3月17日 釜日労・争議団82年春斗開始、ケタオチ単価6000円追放へ。
- 3月19日 呉島組、光田組(姫路)とのセンター団交で、6500円確約させる。
- 4月10日 「センターだより」から、
大阪市の被爆者3405人、内西成区272人の内釜ヶ崎70人。
(西成保健所調べ)
- 4月25日 山谷暴動(マンモス糾弾斗争)。
- 5月1日 第13回釜ヶ崎メーデー。
- 5月28日 全国日雇労働組合協議会(日雇全協)結成宣言集会。(三角公園)
(前年からの寄せ場交流会の到達点)
この年、釜共斗結成から10年目。
- 6月27日 日雇全協創立大会。(東京)
- 7月1~2日 高速増殖炉「もんじゅ」建設阻止斗争に参加。(福井)
後日、組合員1名逮捕。7月29日、釈放。
- 7月2日 ドヤ「ホテルちづる」火事。
- 7月26日 暴力飯場、春日建設(姫路)斗争。
飯場内団交において、賃金不払等全面謝罪を勝ちとる。
- 8月 あいりん職安、就労申告書廃止を通告。(82年9月より)
- 8月18日 ダイリン工業手配師、吉田糾弾斗争。
センター団交の途中で浪速署による不当介入。後、組合事務所で
暴力事件の謝罪を勝ちとる。
- 8月26日 就労申告書廃止反対斗争始まる。
センターで反対署名を集める。
- 8月31日 府労働部雇用保険課に対し抗議、署名1610名分を提出。
1名逮捕。
- 9月5日 申告書廃止をめぐる職安抗議中、書記長逮捕。
- 9月24日 大阪府警公害課と西成署、ドヤ「ホテル共楽」を消防法違反で初
の告発。
- 11月4日 申告書廃止反対斗争で3名逮捕。
- 11月10日 全泰老(ファミ)焼身決起12周年集会。(市民館)
- 11月11日 申告書廃止反対斗争で更に1名逮捕。
公務執行妨害容疑。

- 11月29日 釜日労、越冬実とは別個に、
○釜ヶ崎地域合同労組
炊き出しの会
結核患者の会
労働者生協
被爆者の会
など2月末まで越冬斗争。
生活保護の適用を要求し、連日の市更相行動。
- 12月19日 手帳金融の実態報道される。
白手帳を担保に法外な利息“つけ馬”を取る金貸し。(寄せ場サ
ラ金)



第40話 花街のオッサン



第40話「花街のオッサン」は、ありむら氏の「Hotel New 釜ヶ崎」より。一連のカマヤンの作品の中で、飛田を描いた作品は少ない。かつて釜共斗の時代、釜に来るなら、「男はセンターから土方に行け、女は飛田に行って売春婦になれ」ということが言われたとき。つまり、男は抑圧されている男のいる所へ、女は抑圧されている女のいる所へ、という事だったそう。釜共斗以降「飛田の女性解放」の視点は聞かない。

第13回越冬(82~83)

(1982年)5月28日、日雇全協結成。

四大寄せ場の大団結が勝ちとられたが、慢性的アブレが続き、4~8月、天王寺公園などで数百名がアオカンする。

8月31日、不況苦に追い打ちをかけるように一方的に就労申告書廃止。

(11月4日、撤回斗争で3名が逮捕起訴される。)

又、労働者の高齢化が加速、この年は平均47才、毎年1才ずつ上昇。不況下の高齢化はアオカン層の増大につながり、更には、乱立した手帳金融の利用者が白手帳を奪われる事も要因の一つになっている。

12月26日、第13回越冬突入。

28日、医療センター前の布団の中で1名死亡。48才の若手の労働者だった。

29~30日、臨泊受け付け。

2日間で932名を入れたが、却下は713名にものぼった。

30日、医療班を中心に自主診療パトロールを決行。医師2名を同行、三角公園→センター裏入口のアオカン者の診療を行なう。

31日、医療センター前で死亡した通称カワサキさんは、紹介状を持って市更相に入院を頼みに行っていた事がわかった。民生局の冷酷な却下処分の結果が48才の死である。

1月1日、医療班は、市更相が休みのため、直接自彊館に、入院・入寮が必要な病弱・高齢者を連れていった。民生局は全員を門前払いし、西成署を前面に出して弾圧。医療班、越冬実はカワサキさんの一件も、ともに抗議して、座り込みを行なう。

5日、第1回釜ヶ崎保安処分集會。

“アル中・保安処分・使い捨て労働者殺しを許すな”

6日、第2回自主診療パト。

12日、第2回保安処分集會。

15日、年明けから順調に仕事が出て来たこともあり、春期斗争へ1をアピールして13回越冬は終わる。

今越冬は医療面での闘いが主軸となったが、争議面との結合の方向性として退院者、高齢者、「障害者」のための軽作業確保の闘いも提起された。平均年齢が55才を越した現在こそ、その闘いの復権が必要なのではないのでしょうか!!

最後に、「日刊えっとう」の連載記事として、釜ヶ崎越冬斗争史があります。1961年8月1日の第1次暴動から1974年第5回越冬まで、18回に渡って連載。1972年の第1回夏祭りでは、大日本正義団と横山組が殴り込みをかけてきたが、釜共斗は夏祭りを防衛し、ヤー公どもにやり返した闘いが紹介されています。先

輩たちの血を流した闘いの結果、ヤー公が手を出せない力関係を築き上げたのである。集中期きっちり三角公園を防衛しよう!!

資料 臨泊入所資格

1982(S57)

“あいりん地区越冬対策事業概要”より

一. 対象者

あいりん地区に居住する単身の日雇労働者であって、あいりん職安発行の雇用保険日雇労働被保険者手帳(白手帳)を所持する者及び正当な理由で白手帳を所持できない者のうち、年末年始に仕事を得られないため自ら食及び住を求めがたい者。

1983(昭和58)年

- 2月12日 “浮浪者”連続殺傷事件(横浜)報道。
中学生ら10名逮捕。アオカン者3名死亡、13名重軽傷。
(後日、横浜事件として社会問題化する)
- 2月25日 釜日労・争議団による春闘方針提起。
○ケタオチ6500円単価一掃
○現金7000円台を獲得
○飯場改善要求
- 3月9日 三里塚空港反対同盟、北原派、熱田派に分裂。
釜日労は熱田派への支援を決める。
- 同日 青カン者調査、梅田、天王寺、難波など。
- 3月12日 横浜日雇労働者差別虐殺糾弾「少年らを虐殺にかりたてる時代を撃つ3・12討論集會」。(部落解放センター、芦原橋)
- 4月15日 釜ヶ崎会館設立運動始まる。(朝日新聞報道)
設立準備委員会
○「労働者渡世」編集委員会
○キリスト教越冬実行委員会
○釜日労
○夜間学校
など。

4月21日 関西新空港現場事務所設立阻止現地斗争に参加、6名逮捕。

5月1日 全協ニュース第1号発行。(日雇全協機関紙)

5月11日 南警察署が青カン者から強制的に指紋採取。

5月13日 釜日労による指紋採取の現地聞きとり調査。
強引な指紋採取と顔写真撮影は人権侵害として、申し立てする。

5月20日 鈴木国男国賠訴訟に勝訴。
大拘の責任を認める。

6月6日 富永脳外科病院による患者(日雇労働者)放置事件。
死亡原因をめぐり釜日労、医療連など、病院と団交。

6月 この頃、「釜ヶ崎差別と闘う連絡会」結成の呼びかけ。

6月10日 藤木船舶整備(名古屋港内)における日雇労働者に対する民族差別・不当解雇糾弾斗争。
笹日労と釜日労連帯行動。

6月22日 大阪拘置所抗議デモ。
看守による獄中者への暴行糾弾。釜日労、塚本救援会よびかけ。

6月23日 “仕事よこせ”決起集会。(三角公園)

6月24日 仕事よこせ府庁デモ。

7月7~9日 仕事よこせハンスト。(大阪城公園府庁前)
○特別就労対策事業を起せ!
○障害者、高齢者に軽作業を!
○日雇健保制度廃止反対!

7月11日 加藤登紀子夕闇コンサート。(三角公園)
○釜ヶ崎夜間学校
○労務者渡世編集委員会
○釜日労

8月12日 「釜ヶ崎差別と闘う連絡会(準)」ニュース第1号。

8月12~15日 第12回夏祭り。
13日、公共工事で死亡したり、行路病死した仲間の慰霊祭が行なわれた。

9月25日 シンポジウム「釜ヶ崎差別と大阪城築城400年」。(梅田、太融寺) 主催、差別と闘う連絡会。

11月3~4日 金町一家・西戸組(右翼皇誠会)による山谷争議団への武装襲撃。
暴動的決起で反撃するも、上京した釜日労メンバーも含め32名の大量逮捕、後日11名起訴。

11月19日 金町一家の要請による右翼国粋青年隊の全国動員、21台の街宣車、山谷登場。
以後、金町・西戸組との持久戦が半年に渡って続く。

第14回越冬(83~84)

(1983年)2月、横浜寿町周辺で中・高生らによるアオカン者襲撃・虐殺事件が発生。3名が死亡、13名が重傷を負う。「横浜事件」としてマスコミが大きく報道し社会問題となる。
大阪においても襲撃や警官による写真・指紋の強制が明らかになる。
(7月、これを機に「釜ヶ崎差別と闘う連絡会」が結成される)
しかし日雇層に向けられた敵の攻撃はこれにとどまらなかった。

11月3日、国粋会金町一家西戸組による山谷争議団への武装襲撃。
かけつけた全協各支部の仲間と共に反撃を準備するも、4日、32名のデッチ上げ逮捕。浅草警察が公然とヤクザを防衛し、以降権力に守られた金町一家との苦しい闘いを強いられる事になる。

12月9日、市民館で越冬討論会。
はやくも「日刊えっとう」準備号が出され、越冬への結集と、山谷現地派遣団への参加が呼びかけられる。
越冬スローガン“寄せ場—全労働者の連帯で右傾化を撃て”
○アブレ地獄に特出し(特別公共事業の事。山谷ではすでに実施)を出せ!
○日雇健保廃止を許すな!
○アオカンする仲間への差別虐待を許すな!
○右翼暴力団と闘う!

25日、5時フトン上げ、8時医療相談と、定着化したパターンで越冬が始まる。10名以上の山谷派遣、3名の起訴と人手不足だったが、学生支援が多かったのはよかった。

29~30日、臨泊受け付け。収容人員850名に縮小。
列に並んだ半数以上が追い返され、30日のセンター前アオカン者は395名に達する。(西成区内で12月中の行路病死25名)

1月3日、センター前アオカン者476名。越冬最高の人数を記録する。

4日、大阪府・市への抗議行動。中曾根内閣の「行革」=福祉切り捨てを許すな!
「物の福祉から心の福祉へ」などとタワごとを言い臨泊を縮小した事を糾弾する。

同日、笹日労、名古屋炊き出しの会等3名が不退去罪で逮捕。
名古屋市役所での臨泊の増員要求への弾圧である。

4日以降、仕事はポチポチ。アオカン者も少しずつ減る。

6日から3回、新春映画大会と学習会。
「釜ヶ崎差別と闘う連絡会」による横浜事件とその後の報告、被差別大衆との団結の訴えなど。

17日、「日刊えっとう」最終号で、悪徳飯場追放から春斗へ、をアピール。

第15回越冬(84~85)

1984年春斗では最低単価7500円を獲得。

3月、西戸組の逮捕者12名復帰。私も釜にもどる。

6月、第2回全協大会。

8月、認定6200円。

9月、西戸組「山谷互助組合」策動によって、「業者」支配、寄せ場再登場をもくろむ。

10月4日、西戸と金町一家による武装襲撃。山谷で第二次攻防戦が始まるなか、釜も越冬期をむかえる。

12月17日より1週間、合宿所班による連続学習会。「釜の歴史」「部落差別と釜釜ヶ崎」「子供と釜ヶ崎」など。

22日、西戸組により山谷争議団支援、佐藤さん刺殺される。派遣団は再び上京。

25日、センターでの布団敷き、26日朝の医療相談、労働相談がスタート。

29日、臨泊受け付け。約700名が面接、半数が却下。

夕方、三角公園で抗議集会。そして、三角公園の前線基地化、民生局抗議の座り込み、野営をして翌日再度受け付けに向おうという事が確認された。

この年から集中期=三角公園野営路線が始まる。

30日、臨泊受け付け1320名の人員に対し、半分しか入れずガラガラ臨泊の現状が報告された。抗議集会終了後、人パトにでた仲間2名が逮捕される。受け付けが終っても野営、人パトは続く。

これに対し西成署機動隊は警棒を振りかざして人パト隊に襲いかかり、3名が救急車で運ばれた。

1月4日、対市抗議デモ(お礼まいり)の後、三角公園撤収。

1月に入り仕事は順調。医療センターでのアオカンも少しずつ減る。

7日、京都駅パトロール報告。

12月末、七条署は駅構内のアオカン者ら約50名を「狩り込み」、写真・指紋を取り、14名を軽犯罪法・浮浪罪で29日間拘留。

釜越冬実と“東九条地域生活と人権を守る会”の調査で、駅だけではなく京都中の公園で迫害されている事がわかった。

14日、京都最大の人夫出し、明輝建設に対する労働争議。

労災もみ消し、ケタオチ単価などが争点。勝利号で京都にむかい、施主下水道局、元請建設を追及し、労災手続をすぐやる事などを確認させた。

16日、センター撤収。越冬は終わったが、明輝自身の責任追及は春斗へと持ちこされた。

1985(昭和60)年

2月1日 釜ヶ崎春斗、第1回討論集会。(市民館)

2月3日 佐藤さん人民葬行なわれる。(山谷・玉姫公園)

2月20日 「最低単価8000円以上にせよ」の要求書送付する。

3月中旬、現金8000円、飯場8000円、飯代1500円、ほぼ獲得。

同日 京都駅周辺の野宿者取り締まり・逮捕に対し、人権侵害として抗議始まる。「日雇労働者の人権と労働を考える会」など。

3月31日 二期工事阻止三里塚現地斗争へ参加。

釜日労は熱田派支持へ。全協内部では北原派支持団体もあり、統一方針です。

5月10日 釜地区内の16台のテレビカメラを人権侵害として、大阪弁護士会人権擁護委員会に申し立てを行なう。

○釜ヶ崎地域合同労組とキリスト教、薄田神父ら。

6月 新今宮小・中学校の跡地を釜ヶ崎生活センターへの提起なされる。

○釜ヶ崎差別と闘う連絡会、釜ヶ崎キリスト教協友会など。

6月13日 京都駅による再度の野宿者排除(始末書11名、逮捕2名)に対し、駅、民生局に抗議。後、京都府部落解放センターで交渉。

7月1日 医療センター付属病院長、本田良寛(らみ)氏死去。

1963(昭38)年済生会今宮診療所長をへて、1970(昭45)年センター付属病院長となる。

現在、医療センターで無料で診てもらえるのも本田氏の努力によるところが大きい。行政に遠慮ない意見をぶつけ、「けんか医者」と呼ばれた。又、たった一人で暴動を止めたという話もつたえられている。

8月12~15日 第14回釜ヶ崎夏祭り。

○民族排外主義と対決し、戦争路線を打ち砕け!

○85春斗条件を防衛しよう。

○労働者派遣事業粉碎!

○アオカン「野垂れ死」・差別虐殺を許すな!

9月23日 第3回全協大会。(名古屋)

12月9~10日 「釜ヶ崎差別と闘う連絡会」の呼びかけで、第1回釜ヶ崎現地調査が行なわれる。

朝日新聞、NHK、ABC、MBCテレビなどで紹介される。